

<今日の説教のポイント ルカによる福音書9章49-56節>

1 弟子たちの厳しさとイエス様の寛容さを思わされる二つの出来事。

弟子たちの厳しさとイエス様の寛容さを思わされる二つの出来事が続けて記されている興味深い箇所です。しかし、内容は異なりますので、まず弟子たちが怒ったそれぞれの理由を押えておきたいと思います。

2 (49-50) 弟子たち以外にもイエス様の救いを伝える人々がいた。

ヨハネが問題だと思った点をまとめるとこうなるでしょう、「イエス様の名前を勝手に使ってはならない、使っているのはイエス様本人に従っている場合である」と。しかしイエス様は使っているといわれたのです。イエス様の救いをイエス様が良しとされるように理解して宣べ伝えている人々がイエス様の弟子たち以外にもいたのです。もしかしたら、たった今(46以下)誰が一番偉いか議論していた弟子たちよりも、彼らの方がイエス様をよく理解していたかもしれませんね。

3 (51-56) サマリアの人々もまた神様の救いに与る人々。

サマリアに住む人々はイスラエル人とは異なる信仰を持っていました。それでエルサレムに向かうイエス様を歓迎しなかったのです。ヤコブとヨハネの激しい言葉の背景には預言者エリヤの出来事(列王記下1:9)があったでしょう。しかし、イエス様は怒った二人を戒められただけで別の村に向かわれました。イエス様にとってはサマリアの人たちもまた審いて終わる対象ではなく、この先、神様の救いに与ってほしい人々であったのです。イエス様に対する私たちの姿を見られたら、審かれないで終わる人はいないことを思わなければならないと思います。

4 私たち自身がイエス・キリストの寛容さに救われた者。

このように見てきますと、私たちが「かくあるべし」と思う時には往々にしてある視点から見て正しいと言えるだけであって、別の視点から見ると別の問題が浮かび上がって来るということ、また、自分が主張する正しさに対して謙虚でなければならないということを教えられます。イエス様がここで示して下さった姿に救いを覚えなければならないのは私たち自身なのです！ 最後に、聖書にある次の言葉を挙げておきたいと思います。「上から出た知恵は、何よりもまず、純真で、更に、温和で、優しく、従順なものです。憐れみと良い実に満ちています。偏見はなく、偽善的でもありません。義の実は、平和を実現する人たちによって、平和のうちに蒔かれるのです」(ヤコブの手紙3:17-18)。